

北海道PTA連合会

173号



会 報

札幌市中央区北3条西2丁目共栄火災ビル7F / 電話(011)251-6937 FAX(011)210-0929 <http://www.hokkaido-pta.jp>

芦別大会を終えて

北海道PTA連合会

副会長 吉 田 信 二

第55回日本PTA北海道ブロック研究大会芦別大会が、大会スローガン「はぐくもう、心豊かな親子の絆」、研究主題を「子どもと共に学ぶ、楽しむPTA」として、10月4日、5日の両日にわたり、「星の降る里・芦別市」において、全道各地より多くの会員の参加のもと開催され、2日間の日程を滞りなく、成功裡に終了いたしました。

今回の大会は、北空知PTA連合会・芦別市PTA連合会が主管となり開催されましたが、過去に開催された中核都市での開催とは違い、決して大きくはない都市での800人規模の大会ということもあり、開催前はとても心配ではありましたが、今野実行委員長の熱意と努力が実を結び、大会は見事に仕上げられました。あらためて、心より感謝とお礼を申し上げたいと思います。

1日目は、7領域による分科会が開催されました。私の参加した第3分科会は、「北の京芦別」で開催されましたが、とても華やかなデザインのホールでの分科会となりました。テーマを「学校支援のPTA活動」と題し、北海道教育大学の金山教授の基調報告を聞き、引き続きの研究協議では、札幌市内の2校による活動内容の紹介がされました。その中で印象に残った点は、現在、少子化や共働き世帯の増加などにより、PTA活動に参加される会員が少なくなってきた中で、いかにPTA活動を継続していくかという課題でした。PTA活動を「できる時に、できる事をする」を合言葉に活動されていると聞き、過去の経緯に縛られない、現実を見据えた活動方針に思わず頷いてしまいました。また、PTAがPA（親の会？）になることなく、保護者と教師が互いに歩み寄り協力して活動を行うことにより、子どもたちの学校生活が明るく楽しいものになるのではないかと提言されました。

2日目は、芦別子ども太鼓の元気なアトラクションで始まり、続いて全体会が開催されました。今野実行委員長の挨拶にはじまり、はるばる熊本よりお越しいただいた日P協・曾我会長のご挨拶、そして、林芦別市長より力のこもった歓迎の挨拶をいただき、講演会へと移りました。講演会は、「思うは招く」と題し、植松電機専務の植松 努さんの講演でした。はじめて聞く内容でありましたが、講演が始まり、植松氏の幼少時代の思い、そして社会人となつての思い、そして現在の思いを聞いていく中で、演題の「思うは招く」の意味が分かってきました。誰もが持っていた子どもの頃の夢、その思いを「どうせ無理」の一言で消していく大人。子どもたちの将来の可能性を潰してしまうこの言葉を、今日から使わないように！との提言に少々困惑しましたが、植松さんの今日までの「何事にもあきらめない思い」に心打たれ、「どうせ無理」の言葉を使わないように心がけようと思ったのは、私だけではないと思います。とても感動し、心に残った講演でありました。

さて、来年度の第56回研究大会は釧路市で開催されます。大会は、釧路市のみならず釧路管内のPTAにもご協力をいただき開催することが決まりました。秋の釧路は秋晴れと食べ物の美味しい時期です。全道の会員の皆様のご参加をお待ちしております。

平成20年度 第55回日本PTA

北海道ブロック研究大会芦別大会が終わりました

大会は、10月4日(土)・5日(日)の2日間、『星の降る里』芦別市で開催されました。全道各地から約800名の方々の参加があり、北空知・芦別市PTA連合会の皆様の心温まる歓迎と周到な準備の中で行われました。第一日目は、芦別小学校他5会場で5つの分科会と2つの特別分科会が開催され、第二日目は、市民会館において全体会が行われました。

開会に先立ち、勇壮なアトラクション「芦別子ども太鼓」が披露されました。開会式のセレモニーに引き続き講演会がおこなわれましたが、北海道宇宙科学技術創成センター理事・植松 努氏の「思うは 招く」～夢があれば 何でもできる～と題した講演は、ご自分の体験を基にした感動的なものでした。子どもたちはもちろん、私たち大人にも夢をあきらめずに生きていくことの素晴らしさを教えてくれました。



閉会式では、日本PTA全国協議会から北海道ブロック大会長への感謝状贈呈の後、今野大会実行委員長から黒川道P連会長を経て、次期開催地である釧路市P連会長へ大会旗引継ぎがされました。

次期開催地を代表して挨拶された吉田会長は、数羽の「丹頂鶴」とともに登場し、次年度は釧路市のみならず釧路管内こぞっての大会を計画しており全道の会員を大歓迎することを強く宣言し、幕を閉じました。



芦別大会分科会研究協議の報告

【第一分科会】～時代の変化に即したPTAの組織・運営

第1分科会は札P協が担当で、分科会テーマを基に次の3つの提言がされました。一つ目は、「小1の壁」と言われる共働きによる子どもの居場所の問題解決に向け、放課後児童館を準備から半年で完成したことが報告されました。二つ目は、子ども110番スタンプラリーなど協力的な地域の中での成功例が報告されました。三つ目は、どこの学校でも悩みとなっているPTA役員のみならず手に関して、「役員決めアンケート」の結果を資料としてまとめて頂き、今後の参考となる内容でした。

各学校での悩みとして共通した部分が多々あると思いますが、その中でも、地域の協力の部分で多く出た意見として、「地域に協力を求められても、PTA会員自らが動かないのに……」との地域からの声がありました。その通りですね。



